



▲宇野さん(右端)からフラワーロードや駐輪の悩みを聞く上田市長(中)

行政と一体となつていろいろと取り組むことができました。

宇野さん 実は当初、区の職員とは議論が噛み合わなかつたんです。でも、とことん話して理解し合えると、一生懸命力を貸してくれました。やはり、お互い分かり合えるまで議論すべきですね。

司会 常々、市長は市民自治ということを提唱されていますが、こうした「区民が主役のまちづくり」の取り組みを聞き、どのような感想をお持ちになりましたか。
上田市長 地域の各団体が同じ目標に向かい、得意な分野を生かして助け合う。こうしたまちづくりはとても素晴らしいと思います。また、とことん区の職員と議論して、最後には理解し合えたというところがうれしいですね。

地域の力を集め、

そして広げよう！

司会 「スローライフイン24」に

は、町内会や商店街以外にも、地域の学校などさまざまな団体・個人が一緒になって取り組んでいます。その一例が、この会場に飾つてある壁画です。これは、地域の専門学校生約五十人が制作したものです。本日は、デザインを担当した三浦光太郎さんが来場しています。



三浦さん 緑とふれあい、心にゆとりが生まれるまちの未来を願って描き上げました。

司会 このほかに、地域にある白楊小学校の児童も一緒に花を植えてくれます。

▼三浦さんたちが作った縦3メートル、横11メートルの大壁画



来場者 質問なんです。花を飾る活動には地区のすべての商店が参加しているのですか。
小泉さん すべての商店が参加しているわけではないんです。初めての試みということで、全部の商店との意思疎通はしっかりできませんでした。ですから、来年、再来年とこの活動を続けて、まちづくりに対する各商店の意識が深まるようにしていきたいですね。

思疎通はしっかりできませんでした。ですから、来年、再来年とこの活動を続けて、まちづくりに対する各商店の意識が深まるようにしていきたいですね。

宇野さん 隣が花を飾りきれいなったので、自分もやってみたくなったといううれしい話もありました。今後、この活動はさらに広まっていくと考えています。

きれいにしようという意識が芽生えるところからです。私は札幌の緑を30パーセント増やすことを約束しましたが、厳しい財政の面から考えると、市が直接花や木を植えるだけで目標を達成することは難しいんです。難しい状況だからこそ、自分たちのまちをより良くするために、自分たちが花や木を植えようとする人たちが育てる努力が重要になります。こうした緑を増やす取り組みに限らず、市民の皆さんに自分たちこそまちづくりの主役なんだという気持ちを持ってもらうことが大切なんです。

司会 花が人を呼ぶんですね。また本日は、北まちづくりセンターを花で飾っている北連合町内会女性部長の辻野キミさんも来場されています。



辻野さん 花を見た人たちが、「きれいなね」と声を掛けてくれるのがうれしいですね。花のまちづくりは、人の心を穏やかにしてくれます。

まちづくりの主役は皆さんです！

上田市長 今、市内各地で、花や木を地域全体で大切にしようという動きが見られます。こうした動きは、子どもたちの教育にとつて非常に有益だと思います。子どもたちが花を種から育て、その花でまちを美しく飾り、それを気に掛けるようになれば、自然とまちを

その意味でも、この「スローライフイン24」の取り組みは、自分たちのまちを自分たちの手でより良くしようという心を持った人たちを育てていく良い契機となっていると思います。そのような重要な活動に皆さんが取り組まれていることに、とても感動を覚えています。

まちづくりの主役である皆さんの関心は、食や花などの身近なことだけでなく、道路の清掃やまちの景観などにまで広がっているようです。市や区では、こうした皆さんの関心や意欲を大切にしながら、積極的に支援を続けていきます。